

平成28年度

福祉活動体験学習サポーター養成講座（高齢者理解編）

広島市社会福祉協議会の福祉教育推進事業の「高齢者理解」の分野において、高齢者の理解につながるお話や、高齢者疑似体験セットを使用した体験の指導ができる講師の方が少ない現状があります。

そのため、平成29年1月27日に広島市総合福祉センターにて、『福祉活動体験学習サポーター養成講座（高齢者理解編）』と題して、
学習サポーター（講師、学習協力者）の養成講座を開催しました。



広島駅地下広場の階段にて体験中

当日は、15名の方が受講され、実際に「高齢者理解」の分野で講師として活動されている社会福祉士の池口良子氏の講義の中で、「講師としての心構え」や、「講座の組み立て方」等について学んでいただきました。その後の高齢者疑似体験セットを使用しての体験では、高齢者疑似体験セットの着用の手順や、広島駅地下広場での階段やエスカレーター、スロープで上り下りの体験を通して体験のコースづくりについて学んでいただきました。

この講座をきっかけとして、「高齢者理解」の分野における講師や学習協力者として活動していただける方を増やし、地域における福祉教育の推進につなげていきたいと思います！！



池口氏の講義場面

高齢者施設で活動しているボランティアグループの情報交換会

2月22日、高齢者施設で“話し相手”“レクリエーション”“演芸”を広島市内で行っている11のボランティアグループが広島市総合福祉センターに集まりました。3グループに分かれて情報交換やお互いの悩みなどを共有し、知恵を出し合いました。担い手の増やし方や、施設へ行く際の交通費の捻出など、共通の話題で話が盛り上りました。今回の情報交換で新たなつながりができ、ぜひまた、集いましょうと笑顔で終わりました。



広島市ボランティア情報センター 利用者連絡会 学習会

魅力ある会をつくるには？ × を○にかえるヒントを♪

平成29年2月26日に広島市ボランティア情報センター利用者連絡会の学習会が広島市総合福祉センターで開催され、15団体の参加がありました。



前半はシンポジウム形式、後半はグループワークを行い、今回の学習会では、各団体が抱える困りごとの解決策や、成功している事例、工夫していることなどみんなで情報を出し合いました。

コーディネーター役のANT-Hiroshima代表の渡部朋子さんが、みなさんが活発に意見を言い合えるような雰囲気を作られ、アドバイスや実践的なお話をしてくださいました。

参加者からは、他団体と話ができる、勉強になるという感想があり、とても実になる学習会でした。

学習会終了後、利用者連絡会の新しい活動拠点となった総合福祉センターの見学会を行いました。

来年度も利用者連絡会の活動を盛り上げていただきたいと思います。

お知らせ

今年度から開始！

ボランティアグループ立上げ応援助成金制度♪

白い杖SOSシグナル をひろめる会広島 プロフィール

設立：2016年7月11日
会員数：10名（視覚障がい者と支援者で結成）

活動内容：視覚障がい者が安心して外出したり、助けを求めることがしやすい環境づくりのために、行政機関やボランティア団体、地域に対して「白杖SOSシグナル」を啓発していくこと。



広島市社会福祉協議会では、平成28年11月に、ボランティアグループ立上げ応援助成金制度を創設しました。

この助成金制度は、「ボランティアグループ結成時は活動実績がなく、財団助成を申請しにくい。」という声をうけて、設立2年以内のグループを対象に始めた取り組みです。

今年度、助成をさせていただいたグループ「白い杖SOSシグナルをひろめる会 広島」代表の森井 豊さんに取材しました！

Q: グループを結成したきっかけを教えてください

A: 2014年10月、視覚障がい者の方が車道で車にはねられたという事件がきっかけです。もし、視覚障がい者の方が、周囲に困っているというSOSを伝えることができれば、また、周囲が視覚障がい者の方のSOSに気づければ救われた命ではないかと感じ、「白杖SOSシグナル」を視覚障がい者と地域のみなさんに伝えたいという思いから結成しました。

Q: 助成金を申し込まれたきっかけを教えてください

A: 他の財団助成に申請したのですが、グループが立ち上がったばかりで、活動実績がなく助成していただけなかつたため、悩んでいました。そのようなときに、西区社会福祉協議会の職員の方から「ボランティアグループ立上げ応援助成金」を紹介していただき、申請しました。

Q: 助成金はどのように使われましたか？

A: 色々な人の目にとまるように、A3の大きなポスターの作成や地域の行事でSOSシグナルのPR活動をするためにビブスを作成しました。

Q: 今後どのような活動をされたいですか？

A: 「白杖SOSシグナル」の啓発活動を行う中で、地域の方から「困っているときはどのように声をかければいい？」という声を聞くことがあります。視覚障がい者への声のかけ方をみなさん伝えしていく必要性を感じています。また、視覚障がい者の事故防止につなげるため、ホームの内側を杖や足で判別できるように内方線※付き点状ブロックの整備を行うなど、視覚障害者に対する配慮をされている公共交通機関について伝えていき、みんなが安心・安全に外出することができるようにならせてもらいたいと思っています。

※内方線：点状ブロックの内側に安全側を示す一本の線のこと

今年度の募集は終了していますが、平成29年度も引き続いで「ボランティアグループ立上げ応援助成金」の募集を行います！

ボランティア情報センターは、ボランティアグループの思いや願いを叶えることができるよう、みなさまを応援していきます。



南区ボランティアフェスティバルでのPR活動の様子

ご活用ください！

災害ボランティア ハンドブック&パネル



お問い合わせ

広島市ボランティア情報センター
TEL: (082) 264-6408
FAX: (082) 264-6416



広島市社会福祉協議会では、災害ボランティア活動の果たす役割の重要性が再認識されてきていることから、災害ボランティア活動に参加する場合やボランティアを受け入れる立場になった場合、どういった点に気をつけなければいいかなどをハンドブックとパネルにまとめました。

パネルは、A1サイズであり、4枚1セットとなっています。研修や防災訓練、講座などで積極的にご活用ください。